

介護のプロに求められる認知症ケア

特徴 と ねらい

認知症状別対応場面の映像学習と事例検討やロールプレイングなどのグループワークを取り入れ、実習中心現場に落とし込む内容となっています。介護のプロとして認知症の方の日常生活を支えるために様々な角度から捉えることができ、相手の立場に立って支援できるようにすることを大きなねらいとしています。

■プログラム【1.5～2時間】

時間	項目	内容
1.5 時間 ～ 2時間	■オリエンテーション	・研修の目的と進め方
	●見え方トレーニング (実習)	・多角的な捉え方のトレーニング
	●認知症とは (講義)	・「物忘れ」と「認知症」の違い ・認知症の種類、中核症状とBPSD ・BPSDを引き起こす原因
	●中核症状、BPSD に対する対応の仕方(映像学習) (実習)	・アルツハイマー型認知症の特徴 ・血管性認知症の特徴 ・レビー小体型認知症の特徴 ・前頭側頭型認知症の特徴
	●事例検討と対応ロールプレイング (実習)	・映像学習を基に事例検討により良い対応を考える
	●まとめ (講義) ・人的環境を考える	・専門職、介護職のプロとして ・質疑応答

受講者の声

特別養護老人ホーム（都内）介護職員
講師の体験談で、利用者様の行動をいつものことだと決めつけていて失敗したという話が、自分にも思い当たると思い考えを改めなくてはと思いました。

特別養護老人ホーム（都下）介護職員
映像を活用した内容で、とても分かりやすい研修でした。職員の対応次第で BPSD が進行すること、利用者様は無意味に行動しているのではないことに気づかされました。